

〔様式11〕

(対象事業：先進的な展示・教育普及手法の開発等の事業)

事業名：

博物館群の連携とITを活用した仮想「大阪市総合博物館」構築による芸術拠点形成事業

事業者名：芸術拠点形成事業大阪市実行委員会

連携事業館名：大阪歴史博物館、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立科学館、大阪市立近代美術館(仮称)建設準備室、財団法人大阪市文化財協会

住所：大阪府大阪市大手前4-1-32

TEL：(06) 6946-0989

FAX：(06) 6946-2662

HPアドレス：<http://www.mus-his.city.osaka.jp>

① 施設概要

実行委員会の基幹館である大阪歴史博物館は「都市大阪の歩み」に焦点をあて、大阪の歴史と文化を紹介する歴史系総合博物館として平成13年に開館した。建物は地上13階、地下3階の構造であり、総床面積は23000㎡余り、展示場面積は5000㎡余りである。他に実行委員会を構成するのは、大阪市教育委員会が所管する美術、自然史、科学等の6施設である。

② 事業の意図目的

本委員会を構成する大阪市の美術館、博物館等は、個別にホームページを立ち上げているが、入館者等が利用しやすいようにこれらの情報を一覧的に表示し、またいろいろな利用、活用の方法などの情報を集約し、一元的に提供することにより、小中学生をはじめとする利用者の利用促進を図る。またこれまでの本事業により蓄積した韓国の芸術や文化に関する成果を広く公開する。

③ 事業概要

実行委員会は小中学校の教職員と連携し、生徒や教職員が館種(分野)を超えた情報を効果的、効率的に取得できるようなホームページの構築をおこなう。そのために教職員等にヒアリング等をおこない、また参考事例の収集をおこなう。

それらの成果をもとに試案を作成し、評価や試行を繰り返し、改良に努め、完成品を立ち上げる。また、これまでの本事業で蓄積した韓国の芸術、文化に関する成果を、特別展として同ホームページ上に公開する。

④ 事業の製作物および報告書等

ホームページ「大阪市立の博物館・美術館情報」を立ち上げた。アドレスは、www.museum.city.osaka.jpである。

⑤ “意見交換会”参加者状況

ホームページの試案を作成した段階で、小中学校の教職員、IT関連団体等の職員に呼びかけ、“意見交換会(シンポジウム)”をおこなった(参加者：21名)。

(1) 事業の実施状況について

○事業の目的について

本事業の実施者である大阪市実行委員会の構成館は、従来、館の情報を提供するために個別にホームページを立ち上げていた。これらは形式、内容等は特に統一されたものではなく、利用者が目的にそって、比較、検討等をしやすいものとはなっていなかった。そのため、必要な情報を一覧的に表示し、また利用、活用の方法などの情報を集約し一元化して提示したホームページを作成することにより、小中学校の生徒や教職員をはじめとした利用者の利用促進を図ることを目的とした。

○事業の進め方

上記目的にそったホームページを作成するためには、実行委員会を構成する各館と小中学校の教職員が連携し、情報交換をおこないながら進めることが必要であった。まず、教職員にヒアリングをおこない、小中学校が博物館、美術館等を利用する場合、どのような利用目的があるか、またその際どのような情報が必要かといった調査をおこなった。一方で、各館の学芸員による研究会を継続して実施し、ヒアリングの内容等を分析するとともに、参考事例の調査をおこなった。

これらのデータをもとにホームページの試案を作成し、研究会で検討を重ね、内容の改善をおこなった。期間中に10回の研究会をおこなった。

できあがったホームページに対しての利用者の意見を聴取し最終的な完成品とするために、利用者として想定していた小中学校の教職員やIT関連団体の関係者に呼びかけ、“意見交換会（シンポジウム）”の場をもった。会では、学校連携として各館が従来おこなってきた取組みを紹介したうえで、完成したホームページを実見してもらい、使用方法を説明したうえで参加者の意見を求めた。“意見交換会”で出された意見については、後に記す。

このような経緯、検討を踏まえて、最終的な改良を加え、ホームページを立ち上げた。ホームページの内容は、①博物館利用案内、②博物館の楽しみ方、③学校教育との連携、④大阪市内博物館リンク、⑤バーチャル特別展、の構成である。まず①各館の施設案内を一覧表として示し、必要な館だけを選択して比較検討することもできるものとした。②では館活動を4種類に分け、それぞれに詳細を示した。③では学校連携のプログラムを示し、④では市内の博物館等にリンクできるようにした。これらにより、利用者が館を利用する目的によって館および館活動を選択できるようにし、またいろいろな館を組み合わせ活用するといった利用法についても可能性を示した。⑤ではこれまでの本事業により蓄積した韓国の芸術、文化に関する成果を「特別展」として公開した。なお公開にあたっては、東ソウル大学の朴岩鐘教授、新羅大学の金福敬助教授と協議し承諾を得た。

(2) 地域との連携について

○学校との連携

本事業を進めるためには、小中学校の教職員との連携が不可欠であった。学校側が博物館、美術館等を利用する場合、どのような利用の目的があるのか、またその際どのようなことを望んでいるのかなど、館側も十分に把握しておく必要があった。これまでも各館は特定の分野の教職員とは個別の繋がりをもっていたが、博物館群の総体としての働きかけは十分ではなかったため、相互の連携については一からのスタートとなった。また製作をすすめていたホームページに対する意見を聴取するために、教職員を対象とした情報交換会をもった。このような活動は、学校教育と博物館、美術館等が連携した活動をすすめるためにも、今後に繋がるものであると考える。

○博物館、美術館等の連携

大阪市には教育委員会の所管する博物館、美術館等が7施設ある（建設準備室を含む）。これらは対象とする分野が異なるため、日常的には独自の事業をおこなっている。各館が学校連携としてどのような活動をおこなっているかといった情報交換も十分とはいえなかった。

このような状況下にあつて、館の枠を越えた幅広い事業展開が求められている今、相互の連携した活動が必要である。芸術拠点形成事業に参加することにより、各館が協同で継続した研究会をもち日常的な交流をおこないながら事業をすすめることは、地域の博物館相互の連携を考えるうえで意義のあることである。

(3) 成果物について

ホームページ上に、「大阪市立の博物館・美術館情報」として立ち上げた。アドレスは www.museum.city.osaka.jp である。

(4) 参加者の反応

試案として作成したホームページを、小中学校の教職員等に見てもらい、意見を求めた。出された意見の主だったものは、

- ・ これまでは、目的にあわせた、あるいは自分の興味のある館のホームページを見るだけだったが、今回できあがったものはすべての館の情報を一覽的にみることができるので、いろいろの内容を同時に見比べることができる。また容易に詳しい情報まで得ることができるので、校外授業や総合学習で内容やコースを検討する際に便利である。

といった好意的なものであったが、一方で

- ・ ホームページのデザインを、もう少し子供に親しみのあるものにしたい、内容がかたいといった意見があった。

今回作成したホームページは、館の情報を一覽的、一元的に発信し、目的に

そった利用、活用の方法を比較検討しやすくするというものであったが、一方で、子供たちが興味をもって自ら調べるといったことがすすむような内容が欲しい、といった声があった。これらについては、実行委員会構成館でつくる研究会の内部でも意見のあったことであり、本実行委員会の今後の取り組みとしたい。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

本委員会の構成館が芸術拠点形成事業に参加する目的は、構成館が協同で事業を実施することで館の枠を越えた事業展開をおこなうこと、また地域の小中学校と連携した活動をおこなうことで学校教育と博物館等の活動の融合を図ることにより、地域の芸術拠点となることを意図したものであった。

事業を進めるにあたり、各館が相互に連携を図り、また教職員と継続した協力体制をもつことできたことにより、大阪市による「学社融合」にはずみをつけ、今後に繋げることができると考える。

完成したホームページは、教職員の方々からは概ね好評を得ており、今後もデータ分析や意見交換等により、改良に努めたい。